





# 大極のもと人種国籍宗教を越えて

## 教祖ご昇天34年祭・第32回合祀敬霊祭 修養団捧誠会



「教祖礼拝の詞」を奏上する出居総裁

久世平和の理念が、急速に重要性を増している。この後、「合祀の儀」が執り行われた。小松秀憲教

## 「病氣平癒」「家内安全」願う 大護摩祭 大三輪教



大三輪教(追道管長)は、8月20日午後1時から、奈良県桜井市の本部・本院で

をひとつと見る教祖の深く広い世界観、そして理念こそが人種国籍宗教を超えたすべての人々の平和と幸せにつながっていくと思えます」と述べた。

## 清らかに、まっすぐに 例大祭 日本神宮本庁



日本神宮本庁(中島秀典・帯廣明神大社)で「平成29年度例大祭」を斎行した。当日は前日の雨もあがり晴天に恵まれた中、氏子や宗

した。祭員によって開式が告げられ、修祓、開扉の儀が厳かに行われた。中島管長が神前に進み、「大祭祝詞」を奏上した。続いて中島管長は神前から降り、祭員と参列者に向かい、教を説く「日本神宮御神文」を奉誦。祭員と参列者は頭を垂れ拝聴した。この後、中島管長が玉串を奉奠した後、役員と来賓が挨拶。参拝者への謝辞を述べ、「教を以て、清らかに、まっすぐに生きていくことが大切」と説いた。来賓の刈谷周二(剣神社司宮)が祝辞を述べ、恒例の秋鮭鍋が振る舞われ、奉納芸能のマンダリンや日舞、よさこいソーラン、カポエラなどが続き賑わいをみせた。

## 広がる平和への実践活動 大和山チャリティーバザー 松緑神道大和山

松緑神道大和山(田澤清喜教主)は9月10日午前8時半から、青森県五所川原市のオルテンシアで「第43回大和山チャリティーバザー」を開催した。

表紙があいさつ。現在、バザーが全国13会場に広がっている様子を紹介した。全信徒は、「食を捧げ、一欲を節する運動」を呼びかけ、具体的に「いづれでも、どこでも、だれでも、いつまでも」できる活動として「平和一食運動」を提唱した。そして翌年9月には、第1回チャリティーバザーが五所川原市で開催された。



二坪献納運動によって寄せられた野菜ほか各名産品が並んだ

二坪献納運動は、二坪献納運動によって寄せられた野菜ほか各名産品が並んだ。田澤清喜教主は「平和一食運動」のアイデアによるもので、各農家が畑の一角を「平和」の実践活動はさらに重要になってきていると語った。

## 仲間と共に笑顔になって 青年部主催 第45回林間学校 思親会



ピザを手作りする子どもたち(19日)

思親会(飯島法道会長)は8月18から20日まで、神奈川県伊勢原市の本部・思親大宮殿で青年部主催の「第45回林間学校」を開催した。同行事は1972(昭和47)年、思親大宮殿が落成開堂して以来、毎年開催されておられ、今年も「笑顔」をテーマとして掲げられ、参加対象は小学生から中学生、高校生以上の青年がスタッフとして運営を行った。18日は午後1時半から開校式。この後、動行作法を学び、本部内の諸堂を巡拝した。

## 共にアジアの平和に貢献を 第10回中宗教指導者交流 WCCRP日本委員会とCCRRP合意プログラム

世界宗教者平和会議日本委員会(WCCRP日本委)と中国宗教者平和委員会(CCRP)の合意に基づき「第10回中宗教指導者交流」が8月25日から30日まで行われ、日本代表団27人(団長は庭野日鏡WCCRP日本委員長、立正佼成会会長)が訪中。少数民族が多数共存する雲南省を訪れ、中国の宗教コ

交流プログラムは、日中両国の委員会が友好的な交流を促進し、相互理解を深めることにより両国の善隣関係を促進し、共にアジアの平和に貢献することを目的に2015(平成27)年、交流プログラムの実施に合意。5年のスパンの中で双方が相手国を訪問するというプログラムを継続的に進めることになった。

この後、市内の中国天主教(カトリック)北京路教堂本堂を訪れ、楊紅昌神父(雲南省天主教愛国会教務委員会副委員長)に面会。楊紅昌神父が中国のカトリ



中国天主教教主団主席(カトリック)大司教、CCRRP

宗教間交流と今後の展開をテーマに開かれたシンポジウム(8月29日、北京市) 翌27日は雲南省内の麗江市に移動。28日、世界文化遺産に登録されている麗江古城を視察し、少数民族の文化や歴史を学んだ。29日は北京市内で馬英林・

副市長)と会食した。北京でシンポジウム後の展開を語り合う

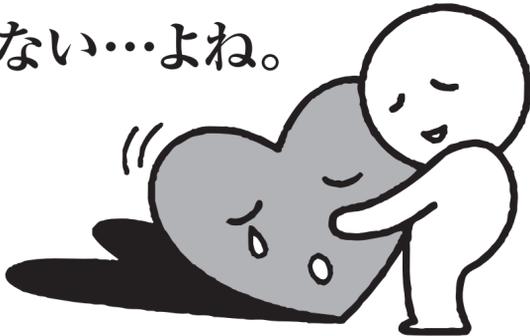
は今年が日中国交正常化45周年に当たることに触れながら、日中友好に貢献した趙傑初師(元中国佛教協会会長)、立正佼成会の庭野日敬開祖はじめ先達に感謝の意を表した。また、交流プログラムの進捗を報告した。続いて、喇嘛秘書長と富高2WCCRP日本事務局長がスピーチを行った。また庭野会長は、日中の相互理解と友好の心触れを促すためのフアンリテーターの活動について交流と協力関係を築いていくことを提案した。閉会のあいさつで深田充裕WCCRP日本

北京市と雲南省を訪問、相互理解深める

## ひとりで悩まず電話して!

### ホントに辛い時って誰にもいえない...よね。

- 必要に応じて面接をしています。
- 手紙でのご相談にも応じています。
- 秘密は守られます。
- 相談は無料です(通話料はかかります)。
- 金銭的な援助はできません。
- 医療・法律・教育関係の助言や指導は、専門家をお願いします。
- 特定の思想・宗教・政党などは一切関係ありません。



## NPO法人 国際ビフンダース 東京自殺防止センター

# 03-5286-9090

年中無休、夜8時から翌朝6時まで  
火曜のみ午後5時から翌朝6時まで

〒169-0072 東京都新宿区大久保3-10-1 日本基督教団シロアム教会内  
事務局電話番号 03-3207-5040 (FAX 03-3207-5098)

- 全国にある他の自殺防止センター
- 国際ビフンダース 大阪自殺防止センター 06-6260-4343 毎週金曜、午後1時から日曜、午後10時まで
- 国際ビフンダース 宮崎自殺防止センター 0985-77-9090 毎週日曜・月曜・水曜・金曜、午後8時から午後11時まで
- 国際ビフンダース 熊野自殺防止センター 05979-2-2277 毎月第1金曜、午後8時から11時まで
- 国際ビフンダース 岩手自殺防止センター 019-621-9090 毎週土曜、午後8時から午前4時まで
- 国際ビフンダース あいち自殺防止センター 移転のため7月6日まで休止



●東京自殺防止センターは国際ビフンダースの一員です。  
●私たちは国際ビフンダース憲章に沿って活動しています。

# 比叡山宗教サミット30周年 誤解を乗り越えるための対話を

## 詳細 世界宗教者平和の祈りの集い

比叡山宗教サミット30周年を記念する「世界宗教者平和の祈りの集い」(日本宗教代表者会議主催)が8月3、4日、東京都左京区の国立京都国際会館と滋賀県大津市の天台宗本山比叡山延暦寺で開かれた(前号1面既報)。今号では、3日午後京都国際会館で開かれた開会式と基調講演、シンポジウム、4日午前の分科会。また3日夕方に山科区の將軍塚青龍殿で催された「鎮魂の祈り」などについて詳報する。

8月3日午後1時からのシスコ、パン・ワナメティ開会式では、日本宗教代表 世界仏教徒連盟会長、ムハ、者会議事務局長の杜多道雄、リム・アルイーサ、ワールドイスラム連盟事務局長ら同士がお互いの誤解を乗り越えるための対話し、協同が紹介された。続いて、聖エジディオ共同のアルベルト・クワトルツ事務局長が講演し、対話ももが実践することが出来る芸術であり、「平和のクラフトマン」として、この2日間で友好関係と祈りがさらに育つてほしい」と述べた。

### 核廃絶と貧困 教育を語る

#### 分科会

4日午前には京都国際会館の2つの会議室で、分科会1「核廃絶と原子力問題」を考へると分科会2「貧困の追及と教育の普及」が開かれた。

分科会1では、基調講演を杉野恭一世界宗教者平和会議(WCRP)国際副事務局長が行い、①核兵器と原子力エネルギーの危険な類似性②国際社会が核兵器を抑制し緊張関係にある③日本並びに宗教団体が果たすべき役割の3点について解説した。

分科会2では、基調講演をアフジャヤ大司教のジョー・オナイエケ大司教が行い、①貧困が原因で就学が困難になり、②貧困が原因で貧困状態に陥ってしまう③貧困の悪循環を断る必要がある④必要に応じて、貧困を指し示すこと。この後、6人のパネリストに移り、それぞれの見地を述べた。



3日午後2時半から明石康元国連事務次長写真右が「分裂と憎悪をどうしたら乗り越えられるか」、ウイリアム・ベンドレイWCRP国際事務局長(写真左下)が「暴力的過激主義に宗教者はどう立ち向かうか」をテーマに基調講演を行った。

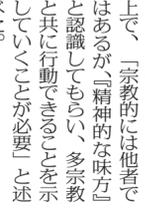
# 対話の場を地道に広げ 分裂と憎悪、過激主義に立ち向かう

## 基調講演



3日午後2時半から明石康元国連事務次長写真右が「分裂と憎悪をどうしたら乗り越えられるか」、ウイリアム・ベンドレイWCRP国際事務局長(写真左下)が「暴力的過激主義に宗教者はどう立ち向かうか」をテーマに基調講演を行った。

明石氏は国連での経験を活かして、「国と国との戦争は明らかに少なくなってきたが、同一国内における民族や宗教の違いに根ざす紛争が発生するようになった」と述べた。



ベンドレイ氏は、暴力的

者は京都市内を一望できる山科区の將軍塚青龍殿に移動し、「交流会、鎮魂の祈り」に参加。青龍殿内で書いた折り紙を鶴を折り、オーブ(球)に入れた。

終了後にはシリアから参加したファロク・アキビック博士が急ぎ登壇し「緊急メッセージ」を発表し「緊迫メッセ」を発売し、内戦が収束し「存在を脅かすような迫り来る危険から守ってほしい」と訴えた。

### 第11回総会を開催

#### 教育・啓発の重要性を強調

えせ同和行為等根絶大阪連絡会議(西村朋也会長)は8月30日午後2時から、大阪市港区のH・R・Cビルで第11回総会を行った。

えせ同和行為等根絶大阪連絡会議(西村朋也会長)は8月30日午後2時から、大阪市港区のH・R・Cビルで第11回総会を行った。

### 戦後日本の宗教者平和運動のパネル発表も

#### 日本宗教学会・第76回学術大会

日本宗教学会(氣多雅子会長)は9月15から17日まで、東京都文京区の東京大学で「第76回学術大会」を開催した。

この中で本願寺史料研究所の近藤俊太郎氏は、「戦後日本の仏教界と靖国神社問題」をテーマに発表。1969(昭和44)年から74

公刊シンポジウム「歴史のなかの大学と宗教研究」が行われた。また、16、17日は個人発表とパネル発表が行われた。

17日午後1時15分から17日午後2時15分までのパネル「戦後日本の宗教者平和運動」が発表された。

「戦後日本の宗教者平和運動」の思想と実践をテーマに発表。松本道大と山和の「食を捧げ、一欲を節する運動」などの平和運動を取り上げ、WCRPや新日本宗教学者連合会(新宗連)との関わりの中

で、同教団の平和運動が生まれ、拡がっていったと分析した。

16日の午後4時20分から17日の午後10時30分までは、新会長は筑波大学教授の山中弘氏を選任した。

15日は午後2時40分から16日の午後10時30分まで、新会長は筑波大学教授の山中弘氏を選任した。

### 幅広いテーマで講義が展開

#### 第48回部落解放・人権夏期講座

野町の高山山科大学で「第48回部落解放・人権夏期講座」を開催した。

1日目の全体会は、松本道大先生を会場に、部落解放・人権研究所所長の奥田均氏が「部落差別解消の意義と活用」の課題をテーマに講演(写真)。

高野山大学体育館では、朝日新聞記者の田中久穂氏が「なせいま「水俣病」なのか」をテーマに、ハンセン病遺族・家族の会「れんげの会」副代表の黄光男氏が「ハンセン病家族訴訟」を解説した。

渚本氏は部落地名鑑鑑を復刻してネット通販、アマゾンで販売しようとしたインターネット「鳥取ループ」の行為が、差別文書の大量ばらまき事件など、近年の差別事件の動向を紹介するとともに、1974(昭和49)年兵庫県八鹿町の県立八鹿高校で起こった同和啓蒙をめぐると「八鹿高校事件」を解説した。

人権教育の今日的課題として、住宅や道路など目に見えない環境は改善され、部落差別が表面化したことについては、教育や行政、運動の取り組みの成果であると評価した。

しかし、結婚や就職については相当改善されているものの、一部には身元調査による結婚差別や就職に関する統一応募用紙返却や面接時に不適切な質問をする企業があるなど、まだまだ啓蒙が必要な実態を解説し、「教育は人を変える」と教育や啓蒙の重要性を強調した。

宮城県名取市在住の作家大沼えり子さんが原作。映画は、東日本大震災の津波で息子を失った女性「君の笑顔に会いたくて」製作委員会。

大沼えり子さんの著作が原作。映画は、東日本大震災の津波で息子を失った女性「君の笑顔に会いたくて」製作委員会。

### 君の笑顔に会いたくて

#### 保護司の姿描く

大沼えり子さんが原作。映画は、東日本大震災の津波で息子を失った女性「君の笑顔に会いたくて」製作委員会。

大沼えり子さんの著作が原作。映画は、東日本大震災の津波で息子を失った女性「君の笑顔に会いたくて」製作委員会。

大沼えり子さんの著作が原作。映画は、東日本大震災の津波で息子を失った女性「君の笑顔に会いたくて」製作委員会。

大沼えり子さんの著作が原作。映画は、東日本大震災の津波で息子を失った女性「君の笑顔に会いたくて」製作委員会。

大沼えり子さんの著作が原作。映画は、東日本大震災の津波で息子を失った女性「君の笑顔に会いたくて」製作委員会。

大沼えり子さんの著作が原作。映画は、東日本大震災の津波で息子を失った女性「君の笑顔に会いたくて」製作委員会。

大沼えり子さんの著作が原作。映画は、東日本大震災の津波で息子を失った女性「君の笑顔に会いたくて」製作委員会。

大沼えり子さんの著作が原作。映画は、東日本大震災の津波で息子を失った女性「君の笑顔に会いたくて」製作委員会。

### 新刊紹介

#### 日本の書 手島 泰六 著

文字は情報伝達の手段ではあるが、「書の本質は文字を書くだけのもではない」と著者は記す。ここでは「書」が、精神が込められているからこそ、我々はその書に感動するのである。

本書は産経新聞紙上で2012(平成24)年から16(同28)年にかけて連載されたものを加筆、再構成したもので、著者は国内・海外で書展を数多く開催する現代書家、宗教学者、作家である。本書では、日本における書の歴史を、書家一人ひとりに焦点を合わせて紹介しつつ解説している。

三筆(空海、嵯峨天皇、橘逸勢)や三蹟(小野道風、藤原佐理、藤原行成)から素人による近現代の書家まで、古代から近代にかけての能書42作品を見開きで1冊にすっきり図版と解説で紹介していく。

平和への道 山崎 龍明 著 著者は、浄土真宗本願寺派僧侶で武蔵野大学名誉教授、WCRP平和研究所所長など、宗教者として長年平和について研究、発言、行動してきた。

本書執筆にいたるきっかけは近年の憲法改正にある。『いつの時代も沈黙』と『無関心』を国家は歓迎し、国民がめざめることが恐ろしいからです。これを歴史の法則です。その法則を破り、全てのものが光の輝く世界が、「平和」が言われる世界です。(まえがき)に、著者の思いが込められている。(樹心社刊、四六版、2017年、定価1800円)